

【例題－事務3】

財政政策のマクロ経済に対する効果に関する次の記述ア～オのうちには妥当なものが二つあるが、それらはどれか。

- ア. 財政支出の増加はそれ自体が総需要を拡大させるが、その一方で、利率の低下を通じて民間投資を刺激し、さらに総需要を拡大させるというクラウディング・アウト効果を持つ。
- イ. 総需要が大きく落ち込みかつ利率が極めてゼロに近くなると、いわゆる流動性の罫に類似した状況となり、利率を操作する金融政策が有効な政策でなくなるのに対して、財政政策は有効な政策となる。
- ウ. 累進的な所得税や失業保険制度は、不況期には納税額の減少や失業給付の支給額の増加を通じて消費の落ち込みを抑制し、好況期には消費の伸びを抑制するなど、景気安定化を自動的に行う機能を持つ制度と見ることができる。
- エ. 政府が常にその期の税収と財政支出とを一致させるという均衡財政を政策方針として決定したとする。この政策は、不況期には税収と財政支出が減少するため、景気を刺激するために有効な政策と言える。
- オ. いわゆる公債の中立命題によると、財政支出の財源を増税で賄う場合とは異なり、財源を公債発行で賄う場合は、人々に将来の減税を予想させることで現在の消費を増加させる効果を持つ。

- 1. ア, エ
- 2. ア, オ
- 3. イ, ウ
- 4. イ, オ
- 5. ウ, エ

(正答) 3